

# 電気製品の 寿命が短く なっている？

最近、「昔よりも電気製品が壊れやすくなった」という声をよく耳にします。技術革新により寿命が延びてもよさそうなものですが、いったいなぜなのでしょう。



## ✓ 適切なメンテナンスを行うことで、寿命が延びることもあります。

実は、技術革新は電気製品の寿命の“長さ”ではなく“正確性”を向上させました。メーカーが提示する製品の平均寿命はかなり高精度で、実際にその前後で使用できなくなります。

しかし、突然動かなくなるのも困りものです。「エアコンが動かなくなって暑い夏を過ごした」「ガス給湯器が動かなくなってしばらくお風呂に入れなかった」などという経験はありませんか？すぐに修理・交換できなくて、「1~2週間使えなくても我慢した」なんて、大変な思いをした人もいるかもしれません。

万一、給水ポンプや機械式駐車場、TVブースターなど、マンションの共用設備が突然使えなくなったらもっと大変なことになります。例えば、給水ポンプが止まって2週間も断水が続いたら、マンション全体の生活に支障をきたします。

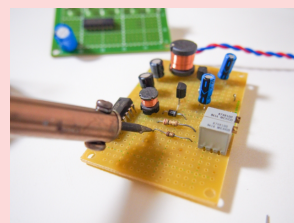
そんなリスクを少しでも回避する為に行われるのがメンテナンスです。設備の経年劣化の進行具合を確認するとともに、適時適切に部品を交換していくことにより設備の寿命を延ばすことができます。

万一の場合でも、メンテナンスカルテに点検報告や部品交換の記録が残っているので解決もスムーズです。



## 修理職人が消えた理由とは？

最近では、家電製品が壊れたら基盤交換か商品交換が主流で、かつてのように「はんだごて」で修理する職人を見なくなりました。修理して使い続けるよりも基盤交換や商品交換した方が低リスクだという考えになってきたからです。最近の家電製品は暴走することのないように、不具合が起これば停止するようになっています。同じ電気製品と言っても、共用設備と家電製品では“メンテナンス”への考え方が異なるのですね。



熱で溶かしたはんだで配線などの金属を接合する作業を「はんだ付け」と言い、はんだごては職人の必須アイテム。